

補強工事の直前に被災

熊本県益城町・寿徳寺



も視野に入れた工事を考えていたが…」と話す。

16日の地震で、本堂の柱は大きく傾き、壁は激しく壊れた(写真)。地震から1週間後にボランティアの手を借りてご本尊を運び出すまで、河邊住職は本堂で朝のおつとめを続けていたという。

現在、ご本尊は隣に建つ納骨堂に移されている。

坊守の梨奈さん(37)は小学1年と1歳の娘を連れて一時期、親戚宅に避難した。「子どもたちが寝る前、『ここは揺れない?』と不安そうな顔を浮かべた。長女が通う小学校の体育館は今も避難所になっている。そこから通う友達もいる」と話す。

河邊住職は被害に遭った門徒宅へ案内してくれた。(次号に続く)

熊本県益城町^{ましき}の寿徳寺がある平田地区は、同町中心部と西原村の間に位置する。河邊裕司住職(37)は「この地域も被害がひどく、多くの家屋が損壊した。ご門徒も5人が亡くなられた。しかし、行政からも、マスコミ、世間からも取り残されているような感じで、いま

だに被災したままの状態。解体を待つにもいつになるのか…」と話す。少し高台に建つ同寺は、台風の吹き上げの風をまともに受けるため、本堂の屋根を一段下げる工事に入る寸前だった。地震前の4月10日に組まれた足場を見ながら、河邊住職は「壁の補強など